

第1回施設管理研修会 (エネルギー価格高騰時の省エネの実践)

- 日 時 令和5年7月11日(火) 13:30~16:20
- 出席者 21病院24名・委員13名
- 開催方法 Web開催

講演I 燃料費高騰対策!!明日からできる電気代削減対策セミナー

講師 ダイキンHVACソリューション中四国㈱ 横内 健志氏



エネルギーを輸入に頼る日本にとって資源の高騰(燃料費調整額の高騰)により電気代があがっている。昨年のデータではあるが、1.3倍以上もあがっている。電気・ガス価格激変緩和対策事業が終わり、今後も電気代があがることも予想されるので省エネルギー対策をして経営のランニングコストを抑えることが今後重要となる。省エネルギー対策としては、基本料金を抑えることにつながるデマンド制御や節

電省エネ設定・制御を見直すことが建物全体の省エネルギーに効率的と紹介された。

節電省エネ設定・制御には空調温度の緩和、不要時の停止、高効率空調機器の導入などがある。また複数の空調機・換気機器をクラウドにて管理する「DK-CONNECT edge」も紹介された。補助金等を利用し、快適性を損なわない省エネルギー対策が必要である。

講演II 病院省エネルギー手法

講師 (株)イーアンドイープランニング 鈴木 基 代表取締役社長



まず省エネの必要性について説明をされた。2050年CO2排出実質ゼロの目標が達成されなかった場合、2100年天気予報では夏、全国で最高気温が40°Cを超える予想も発表されている(環境省地球環境局地球温暖化対策課2100年未来の天気予報より)。病院は稼働時間が長い、他業種に比べエネルギーの消費量が多い(24時間稼働、止められない機器、患者さん優先の空調設定温度)。そのため各部門での省エネ対策が必要である。

例：病棟部門 中間期の外気利用・過剰な換気を減らす

例：ボイラーの燃焼機器の空気比の調整

例：冷凍機を季節により適切な温度設定にする 等

少しテクニカルな部分もあるが、省エネを進めるためには一人ひとりの「エネルギーの使い方のムダを無くそう」という意識が必要である。

(施設管理委員 日畑成治)